

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学学術情報センターだより 第40号

人にはどれ程の本が必要か？

太田 齋

今どきの若者は本を読まないというコメントは何時頃から耳にするようになったものか。真偽の程は定かではない。貧乏学生はなかなか本を買うことがままならないというのは昔から変わらないだろうが、現代の学生諸君はネット検索で調べるので、専門書の類は図書館があれば、自分で買う必要はないと考える者



が少なくないのかも知れない。かく言う私も、神戸外大での学部学生時代は勉学に励むタイプではなかったから、蔵書と言うほどの量はなかった。その頃、神戸には中国書籍を扱う店が無く、中国で出版された本を入手するには大阪か京都まで出向かねばならないという境遇も関係した。尤もその頃は中国と日本の国交はまだ無かったし、中国は文革真っ最中という時代で、入手可能な大陸出版の書籍と言えば政治色の濃いものばかりで、興味をそそるようなものは殆ど無かった。神戸外大の学生では見かけなかったが、他大学文学部で古代の文献を扱う学生は専ら台湾か香港のリプリントを使っていたはずである。このリプリントが真に劣悪で、大陸出版の本を奥付を勝手に書き換えたり、著者名を架空の人名に仕立てたりして刊行していたのは、当時の政治状況からまだ理解できなくもないが、原本では鮮明なのに、粗悪な技術で印刷したために、字が写っていなかったり、判読困難になっているところが散見するというもの

も少なくなかった。その程度で止まっていればまだマシなのに、中には勝手にボールペンで書き足して、それが間違っているというような、呆れ返るようなものもあった。ただその頃はまだそんなシロモノしかなかったから、選択の余地は無かった。とりあえず購入して、気づいたのは随分後になっていざ使用し始めてからのことである。

収集癖が高じてくるのは東京都立大学（後に石原慎太郎氏が都知事時代に首都大学東京という名前に変えてしまった）の院生になってからである。当時、目黒にあった大学の近辺にはやはり中国書籍を売る店は無かったが、神保町にまで行けば、中国書籍は言うまでもなく、自分の専攻分野の日本語、英語の関連書籍も直に手に取って見ることができた。相変わらず貧乏学生ではあったが、本は徐々に増えていった。中国文学、語学や東洋史の分野で歴史的な研究に従事する者には比較的文献をため込む者が多い。私もその例に漏れない。そのうち使うことがあるだろうととりあえず購入する本が段々と増え、借家住まいの身では置き場所に窮するようになった。書架を狭い部屋に何本も置き、床が抜けないか心配するというのは、同じ分野の研究者に共通する悩みではなからうかと思う。

そんな風に本が増えて行



くと、書架に収まりきれないものを床に平積みにするようになり、部屋に幾つか本の山が出来上がって、背のタイトルが見え難くなってしまいました。こんな訳で、使用頻度の高い本だと常に傍に置くものだし、痛みが激しくなって買い替えということだから、重複ははっきりと自覚してのことであるが、たまにしか使わない本だと、どうしても買った記憶はあるが、どこに置いたか分からなくなっ



てしまい、すぐには出てこないのである。それでまた買うのだが、ダブるのは序の口、悲しい哉、記憶力の減退で、買った記憶が欠落して、同じことを繰り返して、トリップしてしまったものもある。まだクワト

る迄には至っていないと思うが、自分自身がそれに気付いていないだけかも知れない。この手の重複本はえてして肝心な時には一冊も見つからず、他の調べものをしているときにひょっこり出現するもので、またやってしまった、認知症の始まりかと自己嫌悪に陥る。

それはさておき、ヤドカリの如く、本を全部置けるようなより広い（そして家賃の安い）借家を求めて転居を重ねてきた訳だが、自宅を購入するにしても、余程の金持ちでない限りは、本を存分に置ける広い家に住もうとすると本を買う資金が不足する、本の購入を優先すると広い家は望めず、

置くスペースが足りないというジレンマに直面する。私は床を特別に補強したので、本の重みで床が抜けるという虞は（多分）無くなったが、後者の選択をしたお蔭で、自宅も研究室も本で満杯という有様である。要はズボラということも（大きな）原因の一つであるのだが…。かくして自分の研究に必要な文献のほとんどを自前で揃えたと思う頃に定年が近づいて来て、今度は本の整理を開始せねばならなくなる。

似たような境遇の先輩教員は退職を前にして、三か年計画で整理を開始したとか。間に合わずに、退職後も研究室にやって来て本を整理していた教員も複数知っている。そんな前例を目にし、我が来し方を振り返ると、トルストイの寓話が頭をよぎる。果たして自分にとって本当に必要なのはどれ程の量の本だったのかと。

（これは退職に当たってのコメントではありません。退職まではもう少し時間が有ることを、念のため付け加えておきます。）

（おおたいつく 本学教授・学術情報センター長）



書庫3階集密書架改修工事終了について

2014年3月末、書庫3階集密書架の改修工事が完了しました。これによりスムーズな書架移動を行うことが可能になりました。

この機会にどうぞご利用ください。



画面操作が可能になりました。

図書館の使い方

柿本 匡晶

2012年度からスタートした初年次教育が、3年目を迎えました。

初年次教育とは、新入生を対象に、高校から大学へ円滑に移行できるよう、大学が学生を支援す



るための制度です。具体的には、レポートの書き方や、図書館での文献収集の方法など、学習・研究の基本的スキルの指導が主

な内容になります。この初年次教育の一環として、図書館では「図書館の使い方」として、下記のような内容で行いました。

・図書館とは？

大学図書館の設置意図や、主な利用方法、図書館で利用できる資料などを説明紹介しました。

・資料の探し方(図書)

文献収集の練習として、外大の OPAC(図書館の所蔵資料を検索するツール)の紹介と、その外大 OPAC を使った、基礎的な検索演習を行いました。

[演習例1: 外大図書館にある、「レポートの書き方」についての本を探してみる。]

[演習例2: 見つけた資料の書誌事項(タイトル・著者・出版社など)を控える。]

・インターネットからの予約など

OPAC からの、貸出中図書を予約する方法や、返却期限延長の方法を説明しました。

・外大図書館に無い資料の利用方法

必要な資料が外大図書館に無い場合に、購入希望制度や、他大学図書館の利用の申し込みができ

ることを説明しました。

・レポートに使えるデータベース

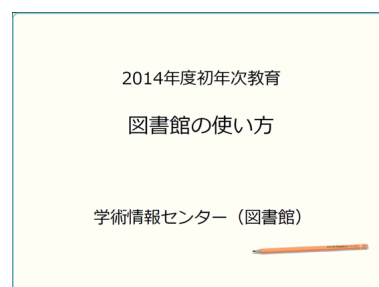
専門用語の調べ方など、外大図書館で利用できるデータベースの紹介と検索デモを行いました。

[例: 百科事典 (JapanKnowledge Lib)、新聞記事検索 (日経新聞)、論文検索 (CiNii) など]

このような内容で、今年は4月から5月にかけて、水曜日の午後を中心に計8コマ行いました。うち、健康診断実施の土曜日にも、各1コマ計2コマ行いました。結果、今年度は新入生の半分以上の方が受講されました。初年次教育は3年目ですが、年々増加傾向にあります。

新入生の皆さんには、講義でしっかり学んだ上で、加えて図書館の資料や設備を有効活用することで、更に充実した学生生活を送っていただきたいと考えています。

(かきもとまさあき 図書館職員)



「○○についてのレポートを書いて提出すること(1500字程度)。」

- ・○○とは? → 事典
- ・○○の現在の状況 → 図書
- ・○○の今後の可能性 → 図書
- ・○○に関するニュース → 新聞・雑誌

新しい学びの空間

「ラーニングcommons」ができました

飯島 祐子

2014年4月に図書館入口のロビーがラーニングcommonsとして生まれ変わりました。ラーニングcommonsとは、直訳すると「学習のための共有空間」。可動式の什器や情報機器などを備えた、学生同士の主体的・創造的な学びを促す学習空間です。ここ数年、全国の大学で導入が広がっています。本学では、図書館が初めての開設です。



ある日のラーニングcommons

1986年の大学移転当時の写真を見ると、図書館のロビーは、ソファやテーブルなどがゆとりを持って配置され、明るく開放感な印象を受けます。しかしながら、学生数および図書館利用者数が増加し、十数年前から閲覧席の不足が大きな問題となりました。やむを得ずロビーに事務用の長机を並べて、座席を確保しましたが、ロビーは殺風景になりました。

閲覧席の不足は、2009年の第二閲覧室の増築でさらに緩和されましたが、その間、大学での学びにおいては、受動的な講義から能動的な学習(ア

クティブラーニング)への動きが表れ、大学に求められる施設にも変化が見られるようになりました。

ロビーの改修にあたり、重視したのは機能とデザインです。床面積140㎡と決して広くはありませんが、今までの図書館では実現できなかった機能をできる限り多く取り入れ、なおかつ、心地よい空間になるよう検討を重ねました。

新しい学習空間は、仲間が集まって意見を出し合い、新たなアイデアが生まれる場、さらには、知らない者同士が知り合うこともできる交流の場を目指し、ディスカッションやプレゼンテーション、イベントなどができる環境を整備しました。また、図書館内の豊富な紙の資料と電子資料を併用して活用できることも特徴です。

それぞれの機能は、(1) グループワークエリア：可動式の机と椅子・ホワイトボード・電子黒板などを使ってさまざまな活動が可能、(2) PCエリア：パソコンとプリンターを完備、(3) くつろぎエリア：リラックスした雰囲気での休憩や資料の閲覧が可能、の3つのエリアに表れています。



改修前



改修後



デザイン面では、森林浴をしているような明るく落ち着いた雰囲気、従来の閲覧室と緑あふれるキャンパスのいずれにも調和が取れる空間を目指しました。また、前述の機能を実現し、快適な空間を作ることのできる什器を選びました。特に重視したのは、色と形です。色は、白・茶・黄緑の3色を基調とし、床の茶色は土、椅子の黄緑色は木々をイメージしました。家具の形状は、できる限り曲線で構成されるものを選び、やわらかい雰囲気を出しました。エリアは機能ごとに3つに分かれていますが、各エリアの什器は同系色を採用しているため、エリアをまたいでも違和感なく利用できるようになっています。



内閣府青年国際交流事業参加報告会

ラーニングcommonsがオープンして3ヶ月が経過しました。ひとりの学習やグループワーク、さらには、授業やイベントにと毎日さまざまな学習や活動に活用されています。

図書館に入れば、学生が思い思いに集まって、

ひとつの机を囲んで勉強をしたり、ホワイトボードを使ってディスカッションをしたり、または、プレゼンテーションの練習をしたりする様子が見られるでしょう。

また、学生主体のイベントにもラーニングcommonsが利用されています。国際交流活動の報告会やボランティアコーナーのセミナー、Marketing Competition Japan 運営委員会によるマーケティングのワークショップも開催されました。これらのイベントは、同じ関心を持つ外大生の交流の場にもなりました。

さらに、「もうひとつの教室」として、授業にも活用されています。日本語プログラムの授業や日本語によるスピーチ発表会が開かれ、ゼミでのプレゼンテーションにも利用されました。

ラーニングcommonsは外大のみなさんのための自由な学習空間です。事前予約も受け付けていますので、お気軽にカウンターにご相談ください。ラーニングcommonsの使い方は、十人十色。あなた自身の活用法を見つけてみませんか。新しい学びの空間の可能性をみなさんと探っていけたらと願っています。

(いいじま ゆうこ 図書館職員)



協働学習、そして国際交流に最適な空間

現在日本語プログラムでは、留学生と日本人大学生ボランティアとがペアで学習を進める2つの授業でラーニングcommonsを利用させて頂いています。2つの授業とは、日本や日本人について調

べるものと、留学生の国の文化や祭について紹介するもので、準備段階でアンケート用紙やスライドの作成、情報検索、文献探しが必



日本語プログラム授業風景

日本語教員 柴田 あづさ

要となりますが、こういった作業を効率よく進めるのにラーニングcommonsは大変適しています。

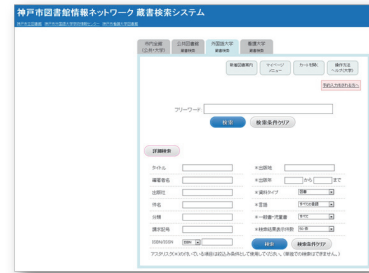
加えて、森の中をイメージさせる色調と開放的な空間、ビーンズ型の丸みを帯びた机、柔らかな椅子は、参加者同士がリラックスして交流しながら協働学習を進める上で最適です。備え付けの多機能型電子黒板は留学生の創造力とやる気を掻き立てます。先日開催させて頂いた最初の発表会では、穏やかで温かい雰囲気の中、発表者とフロアとの活発なやり取りが繰り広げられました。

(しばた あづさ)

蔵書検索システムのリニューアルについて

2014年6月、蔵書検索システム(OPAC)が新しくなりました。シンプルな画面で検索しやすくなっています。また、ILLの申込ができるようになりました*。どうぞご利用ください。

*マイページアカウント(パスワード)が必要です。アカウントの申込はカウンターへ。
(橋本)



国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの開始について

国会図書館所蔵の古典籍や国内博士論文など、約131万点のデジタル化資料を閲覧・複写(印刷)できるようになりました(複写は有料。引渡しは原則翌日以降)。図書館内でのみご利用いただけます。利用申込はカウンターへ。

(橋本)



図書館日誌 2013年12月～2014年6月



2013年

12.2-1.31	展示「司書のおすすめD」第23回	4.8	外国人研究生オリエンテーション
12.11	選書ツアー茶話会	4.8-5.25	展示「司書のおすすめD」第24回
2014年		4.9	ラーニングコモンズオープン
1.27	Newsletter No.8 発行	4.23-5.30	第6回 Re コース
3.24-3.31	蔵書点検		4月のゼミガイダンス 14回実施
3.31	集密書架改修工事完了		5月のゼミガイダンス 13回実施
-	トイレ改修工事完了	4.9-5.17	初年次教育 学科ごとに実施
4.1	講義期間中の開館時間変更(9:00→8:40)		(水曜日5回、木曜日1回、土曜日2回)
-	1.2年生および科目等履修生の 貸出冊数変更(5→10冊)	6.2	国立国会図書館デジタル化資料 送信サービス開始
4.5	英語教育学オリエンテーション	6.4	蔵書検索システム(OPAC)リニューアル
4.7	学部オリエンテーション	6.2-7.26	展示「司書のおすすめD」第25回
-	大学院オリエンテーション		6月のゼミガイダンス 5回実施
-	Newsletter No.9 発行		

AD ALTIORA SEMPER 神戸市外国語大学学術情報センターだより

第40号 ISSN 0919-2336

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学学術情報センター

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

TEL：078-794-8151 / FAX：078-797-2257

URL：http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/



神戸市外国語大学は
2016年に創立70周年
を迎えます。